

PRAEVIDENTIA DAILY (6月13日)

昨日までの世界：ポンドの夜明け

昨日は、Carney・BoE 総裁の唐突なタカ派発言を受けてポンドが急騰したほか、米経済指標の予想比悪化を受けたドルの軟調が特徴的だった。

ポンドは、前日の英失業率の低下に続き、Carney・BoE 総裁が「利上げは市場が想定しているよりも早く訪れる」と述べたことからポンドが急騰、本日早朝にかけて対ドルで 1.6936 ドル（直近高値は 5 月 6 日の 1.6996 ドル）、対ユーロで 0.8009 ポンド（ポンド年初来高値更新）、対円で 172.34 円へ上昇した。具体的な時期には触れていないが、来年前半と予想されている米国の利上げ開始よりも早くなる可能性が更に高まった。

ドル/円は、欧州時間にかけて 102 円前後で横ばいとなった後、米経済指標が市場予想を下回ったことやイラク情勢の緊迫化を受けた米長期債利回りの低下を受けて、一時 101.61 円へ下落した。米小売売上高は総合が+0.3%（市場予想+0.6%）、コア（除く自動車、建材、ガソリン）が横ばい（市場予想+0.4%）と総じて軟調だったが、前月が上方修正された影響もある。また新規失業保険申請件数も 31.7 万件と前週および市場予想を若干上回った。イラクではこのところイスラム過激派の軍事行動が激化する中、昨日は軍がイスラム過激派を空爆、Obama 米大統領も人道的観点から空爆の可能性を示唆するなど、情勢が悪化している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.4	+0.00	+0.01	+0.00	-0.04	-0.04	-0.00	-0.7	-0.6	+2.0	+2.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	-0.01	+0.01	+0.03	-0.01	-0.04	-0.0	-0.7	+2.8	+0.06
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.8	+0.01	+0.02	+0.01	+0.05	+0.01	-0.04	+0.1	-0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.5	-0.04	-0.04	+0.01	+0.02	-0.02	-0.04	-0.7	-0.2	+1.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+1.6	+0.11	+0.12	+0.01	+0.08	+0.03	-0.04	-0.7	-0.2	+1.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	+0.00	+0.01	+0.00	-0.02	-0.04	-0.03	-0.7	+2.0	+1.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：13日の金曜日・新しくない円高の恐怖

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

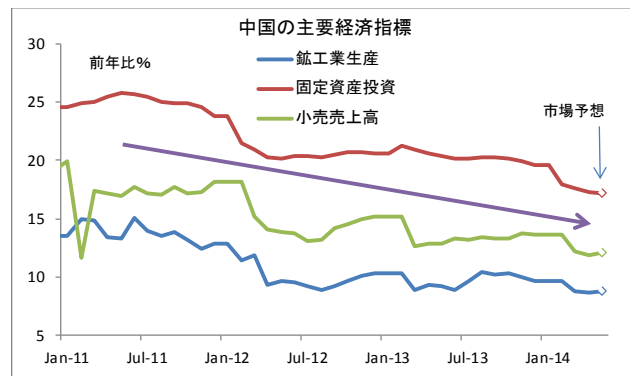
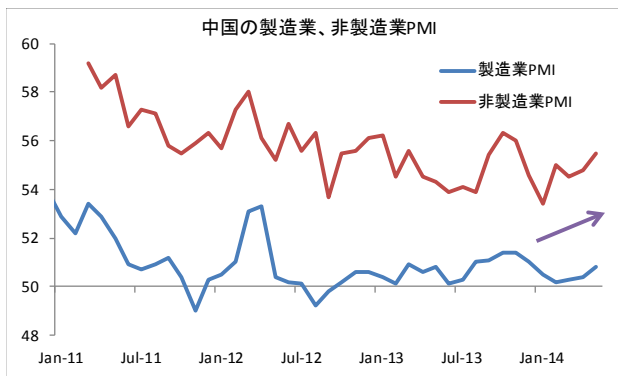
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀金融政策決定会合	未定			市場予想は政策変更なし
黒田日銀総裁記者会見	15 : 00			
中国 5 月固定資産投資・年初来	14 : 30	+17.3%	+17.2%	
同・小売売上高・前年比		+11.9%	+12.1%	
同・鉱工業生産・前年比		+8.7%	+8.8%	
Linde スペイン中銀総裁発言				
米 5 月総合 PPI 前年比	21 : 30	+2.1%	+2.4%	来週の見通しを参照
同コア PPI 前年比		+1.9%	+2.3%	
米 6 月ミシガン大消費者信頼感	22 : 55	81.9	83.0	速報値

(出所) プレビデント・ストラテジー作成

本日は日銀決定会合や中国主要経済指標の発表があるが、相場に方向性を与えることになるかは不明だ。日銀

金融政策決定会合では金融政策を据置き、目先の追加緩和の必要性を示さない可能性が高く、それ自体は円高要因だ。足許の米長期債利回りの低下やイラク情勢への新たな注目もあって、再び 101 円割れを試す可能性もあり、当社は夏場にかけてドル/円が 100 円割れに向かうとみている。もっとも、目先については、市場では既に追加緩和期待が後退しているためサプライズとはなりにくく、むしろ追加緩和期待が後退している中で、黒田総裁が消費増税後の駆け込み需要の反落とその後の反発に関して弱気な見方が示される場合のドル/円の反発リスクにも気を付けたい。

中国では PMI がここ数か月安定化を示しているが、長期的な観点からは主要統計の前年比伸び率の鈍化傾向にみられるように成長減速が続いており（下図を参照）、特に当局は成長の内訳として輸出や投資（固定資産投資など）から消費（小売売上高）へのシフトを促そうとしている。こうした中、全般的に市場予想を下回る場合には豪ドル、NZ ドルが両方とも売り圧力を受けるが（逆の場合は買い圧力）、小売売上高が市場予想を上回る場合には特に乳製品輸出の観点から内需拡大の恩恵を受けやすい NZ ドルが上昇し易い一方、固定資産投資や鉱工業生産が予想以上に鈍化する場合には豪ドル安要因となる。



来週の注目通貨：USD/JPY ↑

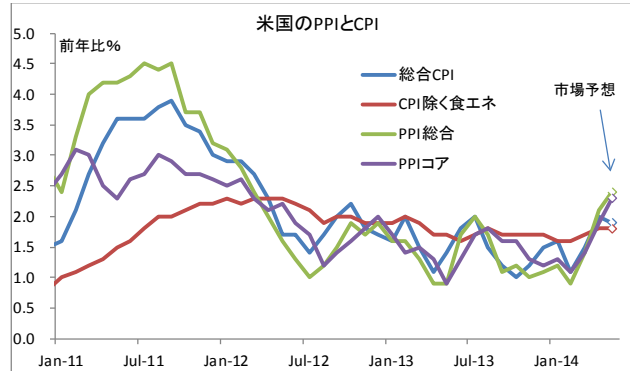
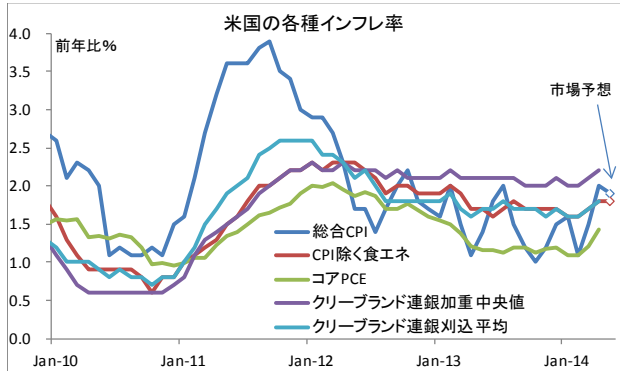
来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<16日>				
<17日>				
英金融安定政策委員会（FPC）			更なる住宅市場過熱抑制措置発表の可能性	
ドイツ 6 月 ZEW 期待指数	18 : 00	33.1		
英 5 月総合 CPI・前年比	17 : 30	+1.8%		
米 5 月総合 CPI・前年比	21 : 30	+2.0%	+1.9%	
同・コア CPI・前年比		+1.8%	+1.8%	
<18日>				
本邦 5 月通関貿易収支・季節調整前	8 : 50	-8117 億円	-1 兆 1060 億円	
南ア 5 月 CPI 前年比	17 : 00	+6.1%	+6.5%	
英 BoE 議事要旨	17 : 30			利上げ派が出てくるか？
米 FOMC 金融政策決定	27 : 00			19 日午前 3 時。
<19日>				
NZ1Q GDP・前期比	7 : 45	+0.9%		
スイス中銀金融政策決定	16 : 30			市場予想は政策変更なし

（出所）プレビデンティア・ストラテジー作成

来週は米 CPI が注目だ。これまで Fed は雇用創出ベース（非農業部門雇用者数の伸び）や失業率により注目して金融政策運営を行ってきたが、既に雇用創出ベースは安定的になり、失業率も低下基調が続いている中、相対的な重要性は低下し、むしろ各種インフレ率が軒並み上昇してきており、今後の FF 金利引上げ時期の議論においてはインフレ率が鍵となってきそう。

Fed はインフレ指標の中ではコア PCE デフレータを最重要視しており、CPI は相対的な重要度は低いが、それでも大まかな方向性を見る上では参考になる。今回、総合 CPI は伸び率低下が予想されているが（+2.0%→+1.9%）、コア CPI は横ばい予想のほか（+1.8%）、総合 CPI と連動性が比較的高い今晚発表の総合 PPI は伸び率が大きく上昇する予想となっていることから（+2.1%→+2.4%）、CPI も上振れリスクが高まる。CPI が上振

れするようだと、現在+1.4%で他のインフレ指標よりも低いコア PCE デフレーターも上振れし次第に Fed の目標である 2%に近づくことになるため、利上げ開始時期に関する期待が前倒しとなる可能性があり、ドル高要因となる。折角レンジ下限にきたドル/円だが、これで下支えされると再びレンジ観が強まるリスクがある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641